

01 水辺との繋がり

この地域は、古くから水辺と深い関わりがあります。緑地の西側を通る烏山通りに、かつて品川用水が流れていました。またこの地域には、比較的浅い地層に点在する地下水「田水」があり、緑地の東側にある高源院の弁天池の水源にもなっており、緑地の池の水も田水の水の可能性があります。



烏山弁天池特別保護区

02 凸凹の地形

緑地は全体的に平坦ですが、北東側には一部、約2mの高低差があります。平成元(1989)年頃の航空写真から、この起伏はかつての庭の「築山」であることがわかりました。当時の庭の面影を想像しながら歩くことも、この緑地の楽しみの一つです。



平成元年頃の緑地の様子
出典：国土地理院撮影の空中写真(1989年撮影)

03 日本庭園の面影

緑地の南西部には、アカマツ、イロハモミジ、竹林、池のほか、景石や石仏などが点在し、かつての日本庭園の面影が色濃く残っています。樹木の衰退やササの藪化など、時の流れとともに庭の姿は大きく変わりましたが、往時の趣を今も感じられます。



緑地のシンボルツリー「スズカケノキ」

緑地の北側でひととき目を引くのは、樹高25mを誇るスズカケノキです。緑地で最も高い木であり、令和7(2025)年6月に東京農工大学の協力のもと樹齢を測定したところ、約60年であることが判明しました。広々とした緑地の中で、のびのびと育って大きくなった緑地がうかがえます。



(仮称)北烏山七丁目緑地 緑地マップ

参考資料④



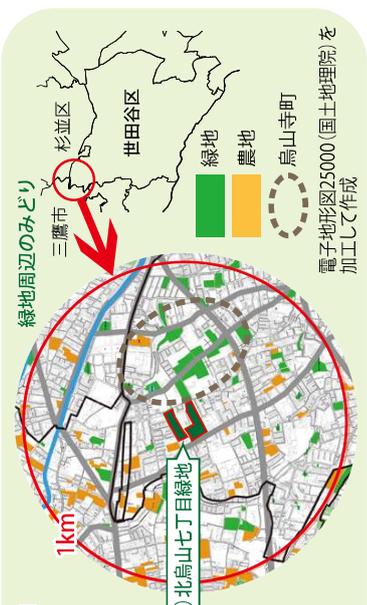
四季折々の緑地のすかた

はじめに

長年、学生寮の庭として地域住民に親しまれてきた「(仮称)世田谷区立北烏山七丁目緑地」は、寺院が多く立ち並ぶ烏山寺町に隣接する住宅地にある樹林地です。時間の経過とともに、多様な自然環境が育まれ、さまざまな生きものすみかとなりました。区では、みどり豊かで良好な地域の環境を守るため、この樹林地を緑地としてとして保全・整備を進めています。この緑地マップは、地域の皆さんに緑地の成り立ちや特徴を知っていただくために作成しました。このマップを手に、緑地を散策してみてください。

緑地とその周辺のみどり

緑地は、世田谷区の北西部に位置しており、武蔵野台地の南端の比較的平坦な場所にあります。隣接する「烏山寺町」は、世田谷の小京とも呼ばれるみどり豊かな寺林が連なり、この地域の象徴となっています。また、点在する農地とそれを囲む屋敷林が一体となって、かつての武蔵野の農村の面影を感じさせる風景も、この地域の大きな魅力です。



電子地形図25000(国土地理院)を加工して作成

緑地のみどりの成り立ち

明治の時代には薪炭林や畑地であったこの地は、戦前は、樺山伯爵家の農園として利用されていました。昭和23(1948)年、樺山家と同じ鹿兒島出身の岩崎興八郎氏が土地を取得し、昭和26(1951)年に岩崎学生寮を創設しました。昭和の時代には、地域に開放、園遊会も開催されていました。公園があったり、温室が整備されていたりなど、形を変えながらも長いあいだ庭園として親しまれてきました。畑、薪炭林、庭園と、みどりの利用や目的が変わりつつも、人との関わりの中で育まれてきたみどりであることは、この緑地の特徴の一つです。

参考：1981年 鹿兒島桜島会、東京桜島会「武蔵野」岩崎学生寮30周年記念特集号

昭和36(1961)年頃の様子(世田谷区立郷土資料館所蔵)

インターネットにて 北烏山七丁目緑地 で検索

緑地ポータルサイト

Facebook

X

Instagram

最新情報は こちらから

緑地のようすやイベント案内、ワークショップなどの情報をお伝えしています。ぜひフォローしてください!!

お問い合わせ先/緑地の計画について

世田谷区みどり33推進担当部 公園整備利用推進課 公園整備利用推進担当

電話03-6432-7903 FAX03-6432-7989

区HP

